

## 令和5年度 事業所における自己評価結果

(児童発達支援・放課後等ディサービス)

### \*環境・体制整備

- ・定員・職員配数は適切である。
- ・完全なバリアフリーではないが、バギーなどでも超えられる範囲となっている。

### \*業務改善

- ・業務改善に関しては、職員同士での意識はあり、振り返りなども行っているが、実際の効率化にはまだまだ改善すべき点はある。
- ・保護者向けの自己評価表への協力は毎年年度末に行い、一年間の振り返りとしている。その上で反省点や改善点・改善すべき点を整理している。結果はHPに掲載している。
- ・第三者による外部評価は現在行っていない。
- ・研修の機会は年に数回行っている。

### \*適切な支援の提供

- ・支援計画は、アセスメントを適切に行うために、支援プランや保護者のニーズに合わせ、一定期間児童の把握のために関わった上で課題を分析し作成している。
- ・支援計画は児童の実態に合った支援目標を立てるために、必要項目の選択をしている。
- ・プログラムは部署ごとに指導員がチームになって立案する。軸となるプログラムを使用し、子どもたちの成長に伴って展開している。
- ・小集団での指導をメインとし、定期的に個別指導や専門職による指導を組み合わせ、児童の把握に努めている。
- ・支援の前後には必ず打ち合わせと振り返りを行っている

### \*関係機関や保護者との連携

- ・地域の福祉事業所との連絡会等への参加。町の健康こども課や福祉課との連絡を取り合い、支援へと繋げている。また、保育所等訪問事業を行い、児童が通う関係機関との連携に努めている。
- ・医ケア児は数名通っているが、母子通園である為、実際の医療行為を指導員が行うことは無いが、その児童が通うリハビリ等の担当者と連携をとるなどの機会は作っている。
- ・就学のタイミングで、就学先の担当者に引継ぎを行っている。
- ・他の児童発達支援センターや事業所同士での研修は年に1度視察があった程度であり、十分ではない。
- ・障害のない子どもとの活動を設定したことは今のところない。

- 自立支援協議会や各部会等への参加は年々可能になってきているが、まだ十分とは言えない。
- 児童発達支援の保護者に向けては、年間を通して勉強会の機会を作っている。半面放課後等ディサービス支援については不十分であるため、希望者だけでも参加できる方法をとるなどから始められると良い。

#### \* 保護者への説明責任等

- 子どもの状況を伝える機会としては放課後等ディサービス支援については十分とは言えない。送迎の際の限られた時間だけでは難しいため、LINE や電話等、保護者が話しやすい方法の選択肢を今後も作っていく必要がある。  
相談の申し入れがあった場合は、職員間で連携しタイミングを逃さない対応に努めている。申し入れがない場合でも保護者の様子を読み取りが大切だと感じている。
- 保護者会が中心となったバザーやおやじの会の開催などで、保護者同士の交流を図る機会を設けている。
- 個人情報の取り扱いについては、個人個人の感じ取り方への配慮も必要だと感じている。
- 地域住民との交流はなかなか機会が設けられていない。地域の行事や身近な団体の体験活動には参加できるようにしている。

#### \* 非常時の対応

- 必要とされているマニュアルの策定はしているが、保護者への周知は十分でない。各家庭への周知に努め、現実味のある訓練や災害時等へのイメージを持ってもらうようにする。(毎月1回避難訓練を実施)
- 年に1度、服薬の状況などを把握している。変更時は随時知らせて貰っている。
- アレルギーの把握はしているが、お弁当を保護者と食べるためそれほどリスクを感じていなかった。今後母子分離対応も増えていくため、しっかりと把握や理解に努める必要がある。
- ヒヤリハット、虐待防止など年間計画をもとに研修機会を設け適切な対応を学んでいく。
- 実際に身体拘束を必要とするケースは現在ないが、しっかり研修を行い正しい認識に努める。